

読み聞かせ、至福のひととき

金子 亜希子

柳田先生、初めまして。私は、一歳の息子を持つ母親です。

息子に初めて絵本を読んであげたのは、生後一か月を過ぎた頃でした。ページをじつと見つめて、ときどきにつこりと笑っていました。泣いているときに絵本を開けばピタリと泣き止むこともあり、この子は絵本が好きなのかもしれない、と感じました。

ありがたいことに、
「出産祝い、何が欲しい？」
と言ってくださる方が多く、そのたびに絵本をリ

クエストさせてもらいました。本が大好きな私たち夫婦は、自分たちでも絵本を買い集め、息子に読んであげるのを楽しみにしていました。

しかし、じつと寝ているばかりだった息子も、寝返りをうち、次第に周りのモノに手を伸ばし始めます。絵本も「モノ」としか認識していないので、舐めたり振り回したり、紙のふちで肌を傷つけそうになったこともありました。読み聞かせをしようにも、大人しく聞いていられることは稀で、ページを触ってぐしゃぐしゃにしまいました。対象年齢に達する前に絵本が破けては大変！そう思った私は、ほとんどの絵本を押し入れの奥に仕舞ってしまいました。息子が自由に触ることができるのは、厚い紙で作られた、何冊かの丈夫な絵本のみ。それらも少しずつボロボロになっていき

ました。

慣れない子育てにバタバタで、毎日があつという間に過ぎていく中、ふと気づくと、いつの間にか自分で上手にページをめくるようになり、舐めたりかじったりすることも減ってきています。再び、存分に絵本を読んであげられる時期が来たのです！仕舞っておいた絵本をいそいそと出してきた、息子の手の届く棚に入れました。最初のうちは、読み慣れた絵本ばかり選んでいた息子ですが、次第に他の絵本にも興味を示すようになってきました。

『なにしてる？』を読んでもあげると、「ベビーカーでいってきまーす！」に合わせて、一所懸命に手を振ります。『めっきらもっきらどおんどん』を読むと、「かんちゃん、ごはんよー」に合わせて、

笑顔で体を揺らし、

「かんちゃん！」

と言います。読んでほしい絵本を持ってきて、私の膝にちょこんと座るようにもなりました。あるときは膝の上で、またあるときは並んで寝ころびながら、嬉しそうに絵本を見つめる息子を眺めるのは、何と幸せなひとときでしょう！

最近のお気に入りには『もけらもけら』。独特な絵と文字の雰囲気声を表現できるように、ゆつくりはつきり読み聞かせています。先日、私の母が、「おばあちゃんが読んであげる。」

と、『もけらもけら』を読み始めました。それを聞いてびっくり！抑揚はなく、物凄い早口で、ササツとページをめくっています。とても一歳児に向けた読み方とは思えません。

「私はいつも、もっとゆっくり読んであげているよ。」

と言いたいのをグツとこらえて、二人の様子をうかがっていると、意外にも息子は楽しそうに笑っていました。同じ絵本でも人によって読み方は違うのだと初めて実感しました。私は「正しい読み方」をしているつもりでしたが、もともと正解なんてなく、自由に読めば良いのですね。違うからこそ、面白い！これからも、私なりの読み方で、息子と絵本を楽しんでいこうと思います。